

「10年後の君へ、小さな声の物語」 学習指導案 (情報科)

日 時：令和5年1月18日(水)

時 間：第1・2・3時限

対 象：第3学年A・B・C組各40名

単元名 「SDGs から未来の世界を考えよう」

【単元の目標】

- (1) SDGs を自ら学び、興味関心のある目標について、自ら深める。
- (2) SDGs の学びを通じて、さまざまな社会問題のあることを知り、その解決に関わることのできる意識を育てる。
- (3) SDGs の学びを通じて、さまざまなアプリを活用して、自分なりのまとめができるようになる。

【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
SDGs について知り、身近な問題と結びつけることができる。 SDGs に関連する情報を主体的に収集することができる。 デジタルデバイスを活用して、まとめることができる。	SDGs を通じて、世界の現状を知り、課題の解決のために自分たちにできる協同的な解決策を考えることができる。 デジタルデバイスを活用して、自分の意見をまとめ、発表することを通じて、友だちと共有することができる。	SDGs の目標達成のために、行動を起こすことができる。 SDGs を身近な問題として捉え、友だちと協力しながら活動に取り組むことができる。

【単元について】

1. 単元について

現在の世界は、地球環境問題や人権問題などさまざまな課題を抱えている。児童それぞれが、それらの問題を自分事としてとらえることが重要である。本単元では、2030年までに達成すべきSDGsの17の目標と課題とのつながりについて、基本的知識を深め、自分たちにできることを企画・実践することで、未来を創る担い手として自己の生き方を見つめ、児童一人一人が深めた学びを自らの生活や行動に生かそうとすることができるであろう。このような学びの姿は、本質的な問いを具現化するものでありこれからの時代に必要となる資質・能力の育成につながると考える。

2. 児童の実態

本実践を進めた3年生の発達段階にあつては、SDGsという言葉を目にしたことはあっても、その詳しい内容について知っていることは稀である。本単元の事前のアンケートでは、「SDGsを知っている」と答えた児童は90%にのぼったが、SDGsを正しく説明できる児童は皆無であった。そのためSDGsについて、その意味を自ら学び、自らの言葉で説明できるようになることを、第一の課題とした。3年生なりに理解することを通じて、自分の知った情報を発信し、友だちと共有することが重要である。本単元の課題であるSDGsを通じて、自分の言葉で考え情報を収集し、自らの言葉で発信することで、世界的な課題に積極的に取り組み、自ら考え実践しようとする力を育てていく必要がある。

3. 教材について

SDGs は、3 年生が初めて世界的な課題に取り組むことになる教材と考えることができる。児童の興味関心を大切にするため、「自分が興味・関心のある目標」から取り組むことにした。3 年生がその発達段階にあわせた理解を大切に、教師から「SDGs とは」という説明を極力、省いて、児童が自らの理解を深める授業を展開した。このことで、児童は自分事として SDGs という教材に取り組むことができたと考える。

4. 指導にあたって

① 留意点 1

従来の教授中心の授業から、児童が自ら学ぶことを重視し、参考資料を iPad で閲覧できるように準備した。

② 留意点 2

テキスト中心の資料だけでなく、動画資料も視聴できるようにし、自ら SDGs の意味を自ら学ぶことができるようにした。

③ 留意点 3

3 年生が取り組みやすい課題を設定し、自ら学ぶことが容易になるように工夫した。

5. 取り上げる SDGs 目標ゴール内容

【12】つくる責任、つかう責任（参照動画/#12 カニさんの砂団子）

地球の資源はだれのものなのでしょう。同じ地球上に生き続けるものとして、本当に必要なものだけを使うことを考える必要がある。多くの場合に私たちは、「つかう責任」を意識することが大切なことにある。「つかう責任」を考えることを通じて、「つくる責任」を意識しながら、生産や消費を意識することで、美しい地球を未来に残す責任がある。

6. 効果的な問い

（参照動画/#12 カニさんの砂団子の場合）

- ① 日本人は、まだ食べられる食品を、毎日どれくらい捨てていると思う？
- ② 食品を捨てている量を世界で比較すると、日本は何番目？
- ③ 生ごみを活用する方法を調べてみよう

7. 他教科との関連

SDGs の目標は、社会科と密接な関係にある。情報科の課題としてだけでなく、社会的な観点も重視し、その課題に取り組んでもらった。また「つくる責任、つかう責任」という目標は、生活指導や食育との関係も深くあるととらえることができる。情報科としての切り口から、これらの課題への意識を広げていくことができると考える。

指導と評価の計画 (全○時間)

時 (次)	目標 / 学習内容	評価方法
第1時から第4時	<p>目標：SDGs について学ぼう</p> <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報メディアプロジェクト」サイトから、SDGs がどのようなものかを知る。 ・SDGs を「自分の言葉」で説明できるようになる。 <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs について「自分の言葉」で説明して、ロイロノートで提出する。 ・ロイロノートを適切に使い SDGs の説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■正しく SDGs の意味を理解することができる。 ■SDGs について、自分の言葉で説明できる。 ■ロイロノートを適切に使うことができる。
第5時から第10時	<p>目標：SDGs についてまとめる</p> <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ SDGs の目標について、コラボノート EX でまとめる。 ・自分がまとめた内容をコラボノート EX で友だちと共有する。 <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラボノート EX でまとめた内容を、Keynote でまとめる。 ・Keynote を使って、プレゼンをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■コラボノート EX を正しく使うことができる。 ■コラボノート EX でまとめた内容を友だちと共有することができる。 ■Keynote を正しく使うことができる。 ■Keynote で友だちにプレゼンすることができる。
第11時から第15時	<p>目標：テーマを絞って SDGs について考える</p> <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カニさんの砂団子」の動画の視聴を通じて、「つくる責任、つかう責任」を考える。 ・「つかう責任」を考えるで、「つくる責任」も考える。 <p>○学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カニさんの砂団子」の動画で学んだことをまとめる。 ・「カニさんの砂団子」で学んだことから、Keynote でクイズを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「カニさんの砂団子」から、「つくる責任、つかう責任」を意識することができる。 ■「カニさんの砂団子」で学んだことをまとめることができる。 ■「カニさんの砂団子」で学んだことから、Keynote でクイズを作ることができる。

本時の学習（11/15）時間

（1）本時の目標

「カニさんの砂団子」の動画を視聴して、「つかう責任」を考えて「つくる責任」も考えることができる。

（2）学習の展開

時間	学習内容 ・ 学習活動	・ 指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5 導入	○SDGs についての振り返り ・これまでの SDGs に関する学びを振り返る。	・それぞれの SDGs の目標をロイロノートで振り返る。	■正しくこれまでの学習を振り返ることができる。
展開 (30分)	○「カニさんの砂団子」の動画を視聴する。 ○ロイロノートのアンケートで「カニさんの砂団子」の動画について回答する。 ○「カニさんの砂団子」が「つくる責任、つかう責任」に関する動画であることを知る。 ○「カニさんの砂団子」からどのような点が「つくる責任、つかう責任」に関する動画であるかを考える。	・ロイロノートのアンケートの回答方法を具体的に説明する。 ・「カニさんの砂団子」が SDGs の目標 12 の動画であることを説明する。 ・グループで「カニさんの砂団子」の内容を考えさせる。	■正しくアンケートに答えることができる。 ■「カニさんの砂団子」が SDGs の目標 12 の動画であると理解できる。 ■「つかう責任」を考えて「つくる責任」も意識することができる。
まとめ (5分)	○次回から「カニさんの砂団子」の動画で学んだこと Keynote でクイズにすることを知る。 ・Keynote でクイズを作る方法を知る。	・Keynote でクイズを作る方法を説明する。	■Keynote でクイズを作る方法を理解することができる。